

医学コースプログラム 4

いのちの学習会

2021.12.08

移植医師 高橋一宏先生をお招きし、12月6日(月)本校実践室において「いのちの学習会」を開催しました。参加者は3年次生(30名)、4年次生(3名)、5年次生(3名)の計36名でした。

この学習会は、「自他の生命を尊重する心を育む」ことを目標にしています。

日本は海外に比べ臓器移植が少ないという現状の認識だけでなく、臓器売買、生体肝移植、移植ツーリズム等の臓器移植を取り巻く社会問題にも触れ、医療系への進学を目指す生徒にとって、医療者として患者に接する際の心構えや自らの生死観を持つことの重要性を学びました。

1. 講義

(1) 動画視聴

(2) 臓器移植に関する講義

・臓器に関わる病気の治療法

人工臓器

再生医療

臓器移植

・臓器移植の歴史

1954年世界初の腎臓移植

(アメリカ)

日本では

「和田移植」(心臓移植)

ドナー 脳死でない可能性

レシピエント 術後8日で死亡

1998年臓器移植法 脳死の定義

生体移植

死体移植(心臓死、脳死)

・臓器移植の問題

ドナー不足 移植を受けられる確率(2～3%) (アメリカ 23%)

*レシピエントの平均待ち時間

肺・・・2年半、心臓・・・3年、腎臓・・・14年半、肝臓・・・3年

臓器売買

渡航移植(日本人がアメリカで行っている)



2. グループワーク

6つの班に分かれ事前に提示されたテーマについて話し合いを行いました。

【事前提示テーマ】

一昨日、あなたの母親が交通事故にあい、病院に救急搬送されました。

検査の結果、脳死と医師から告げられました。

母親は、臓器移植意思表示カードを持っていませんでした。

医師から「臓器提供をしますか」と尋ねられました。

あなたの父親は提供に賛成、あなたの兄妹は賛成か反対かわからない、

祖母は反対でした。

あなたの意見を述べてください(賛成、反対など)。

またその理由を述べてください。



3. 発表会



4. 感想

・今までは、臓器移植に対して賛成だったが、「脳死」という単語は「臓器は動いている状態」という意味を知って、この状況下で臓器移植をするのは身内の人にとって苦しいのではないか。もし、身内の意見が分かれたらどうするのかなど深く考えるきっかけになり、単純な問題ではないのだと思った。今日、自分が学んだことを家族に伝えて、家族で議論し、自分たちがそうなった場合、どうすることを希望するのかなど話し合っていきたい。(5年男子)

・私は先生のお話を聞き、ドナーについて知り、リスクもあるがそれにより助けることのできる命や、救うことのできる親族がいらっしゃるということから、臓器移植提供意思カードは「1」に印をつけておきたいと思った。今は、元気である両親も、いつ、どんなことが起こってしまうか分からないため、臓器移植のメリット、デメリット含め、今日聞いた話をして、今後について決めていければいいと思う。臓器移植について考える人が増えるために、私ができることをしていきたい。(3年女子)

・私は臓器提供には「生体移植」があるということしか知らなかったのも、かなり驚いた。また、「死体移植」には心停止状態と脳死状態で行われるものがあるということも学んだ。「脳死」というのは脳の機能は停止しているが、心臓は動いている状態のことを指すので、臓器移植の際は「死」とされているが、人によっては「生きている」状態だと感じる人も多いのではないかと考えた。日本は特に臓器移植のドナーが少ないという厳しい状況になっているので、何が原因なのかを考え、一人一人が臓器移植についてしっかりと見つめ直すということが必要だと考えた。(4年女子)